

## 2013 年度決算について（概要）

2013 年度は、財政基本方針に沿った予算を組み、経営基盤の安定確保としての学納金収入の確保、とりわけ大学の入学定員確保にむけ常任理事会主導の大学定員確保対策委員会を中心に法人の総力をあげ取り組んでまいりましたが、大学においては入学定員 470 名に対し 355 名の結果となりました。中学も公立の中高一貫が台頭するなど競争激化のなかで定員 225 名（募集定員 220 名）に対し 202 名となりました。幼稚園は収容定員 200 名に対し 216 名となっています。

以下 2013 年度決算について財務三表に沿って概括します。

### 1. 資金収支について

#### (1) 資金収入の部

法人全体では、資金収入合計 3,766,209 千円に前年度繰越支払資金を加えた収入の部合計は 4,804,552 千円でした。当初予算に比べ大学の定員割れが影響し学納金収入が△139,963 千円と大きな減収要因となっています。寄付金収入では、卒業生からの特別寄付金が 50,000 千円中高へ入ったことから、当初予算に比べ 62,394 千円の増収となりました。また、補助金収入は大学において経常費補助金の内特別補助金で私立大学等改革総合支援事業に応募の結果タイプ 1～3 すべてにおいて加算され合計 34,000 千円の獲得を得ました。また、選定大学のみへの設備補助も同時に採択され教育設備充実に貢献しました。補助金全体では当初予算に比べ 58,539 千円の増収となりました。前受金収入は定員割れの影響から当初予算を 90,003 千円下回りました。

#### (2) 資金支出の部

法人全体では、資金支出合計 3,789,271 千円となり単年度資金収支差額は△23,062 千円の赤字となりました。当初予算では 46,961 千円としておりましたが、退職者に対する私立大学退職金財団からの交付金 56,994 千円と国からの設備補助事業に係る補助金収入 68,553 千円など本年度に入るべき収入 146,507 千円が翌年度収入となったことから本年度の資金収支はマイナスとなりました。これら要因を考慮しますと実質資金収支差額は 123,445 千円となります。

以上の結果から次年度繰越支払資金は当初予算より 70,023 千円減少しましたが、1,015,282 千円と当面の目標値であります 10 億円はキープできました。

### 2. 消費収支について

#### (1) 消費収入の部

##### ① 帰属収入

返済を伴わない帰属収入で人件費や教育・管理など必要経費を賄えていることが基本ではありますが、2013 年度当初予算 3,735,477 千円に対し決算では 3,748,980 千円と当初予

算を 13,503 千円上回りました。定員割れによる学納金収入のマイナス 139,963 千円を資金収入の部で説明しましたように寄付金収入と補助金収入でカバーした結果となりました。

② 基本金組入れ額

基本金組入れ額は当初予算に比べ 113,120 千円少ない 360,835 千円であります。

③ 消費収入の部合計

①から②を差引した 3,388,145 千円となり当初予算を 82,321 千円上回りました。

(2) 消費支出の部

① 人件費

当初予算 2,216,882 千円に対し、依願退職者への退職金支払いと退職給与引当金繰入額の予算超過などから 2,279,327 千円と 62,445 千円上回りました。退職関係費を除く教員・職員への給与費は当初予算 2,133,153 千円に対し、2,152,358 千円と 19,205 千円の超過となりました。帰属収入に占める人件費の割合である人件費比率は前年度決算 59.0%を 1.8ポイント上回り 60.8%となりました。

② 教育研究経費

当初予算 1,175,534 千円に対し、1,222,787 千円と 47,253 千円予算を上回りました。要因としまして、減価償却額が設備リースや補助事業関連の結果、当初予算を 68,036 千円上回りました。通常経費は各校部とも経費節減努力の結果予算内となりました。

③ 管理経費

当初予算 270,938 千円に対し、264,062 千円と経費節減の結果となりました。

(3) 財政基本方針

① 資金収入 3,766,209 千円 < 資金支出 3,789,271 千円

② 消費収入 3,388,145 千円 < 消費支出 3,809,226 千円

③ 帰属収入 3,748,980 千円 < 消費支出 3,809,226 千円

財政運営の最重点項目である③が 2 期マイナスとなり、中期計画とのかい離や安定経営基盤回復のための取組に総力を傾注していかなければなりません。

3. 貸借対照表について

(1) 資産の部

① 固定資産

法人全体では、359,706 千円減少

[有形固定資産] 405,677 千円減少しました。

建物：大学校舎E Vや幼稚園クジャク小屋などの取得による増加 41,043 千円、減価償却による減少が 382,020 千円で差引 340,977 千円の減少となりました。

構築物：中高防球ネット新設などに 7,843 千円、減価償却による減少が 41、350 千円で差引 33,507 千円の減少となりました。

教育研究用機器備品：教育システム設備導入に 87,391 千円、廃棄・減価償却による減少 145,792 千円で差引 58,401 千円の減少となりました。

その他：図書購入による増加 25,935 千円が主な内容となっています。

[その他の固定資産] 45,971 千円増加しました。

主な内容は、中高体育館再築のため減価償却引当特定預金に 50,000 千円預け入れを行いました。

② 流動資産

法人全体では、40,614 千円増加しました。

現預金は 23,062 千円減少しましたが、退職金支払に充当する私大退職金財団交付金や設備補助金などの未収入金が 74,656 千円増加したことが主な内容です。

③ 資産合計

①+② 319,093 千円減少しました。

(2) 負債の部

① 固定負債 232,627 千円減少

長期借入金返済により 206,360 千円の減少。また、リース未払い金支払により 21,627 千円の減少などが主な内容です。

② 流動負債 26,221 千円減少

前受金が入学者減から 30,924 千円の減少が主な要因です。

③ 負債合計

①+② 258,847 千円減少しました。

(3) 基本金の部 360,835 千円組入増加（取崩し：2,047 千円）

① 第 1 号基本金 360,545 千円組入増加（取崩し：2,047 千円）

固定資産取得増加や 2013 年度中に支払の借入返済および未払い金支払額合計から 2013 年度リース設備に伴う未払金を差引した額

② 第 3 号基本金 290 千円組入増加

広瀬ハマコ基金他 1 万円単位で未使用残高の組入れ

(4) 消費収支差額の部 419,034 千円減少

資産合計 12,344,905 千円－(負債合計 3,803,091 千円+基本金合計 16,949,245 千円) = △8,407,432 千円 < 翌年度繰越消費収入超過額 >

以上の結果、借入金など負債は 258,847 千円減少しましたが、減価償却による固定資産の目減りにより正味財産は 60,246 千円減少しました。

